[特集]

これからを見据えて、今、学校で育まれる力

市では、地域の特色を生かしながら、児童・生徒の学びと成長を支えています。一方、少子化が進む中、未来の子どもたちに必要な教育環境をどのように確保していくかが課題となっています。市教育委員会や各学校で行っている今の児童・生徒のための取り組みと、未来の子どもたちのために行っている取り組みを紹介します。

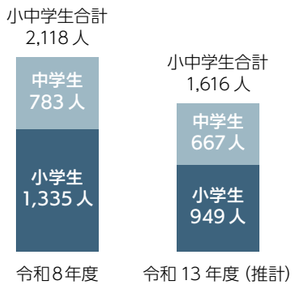
常陸大宮市で「今」学ぶということ

常陸大宮市で子どもたちが過ごすメリット、それは、豊かな自然や地域の文化、人々との関わりを通じて多様な経験ができることにあります。市の教育委員会や小中学校では、それぞれの特色を生かし、知識や学力だけでなく、豊かな心や社会性を育めるよう、様々な教育活動に取り組んでいます。

数字から見る、学校を取り巻く変化

一方で、人口減少や少子化が進んでいることも事実です。そのため、市教育委員会は令和７年12月に常陸大宮市義務教育施設適正配置審議会に対し、今後の適正配置に関する基本計画の策定などについて諮問しました。審議会の調査では、市内の小中学校の児童生徒数が、令和8年度の2,118人から、令和13年度には1,616人になると推計されました（図１）。５年間で約500人、現在の約４分の１が減少する見込みです。小規模な学校には、一人ひとりに目が届きやすいことや、学年を超えた交流が生まれやすいことなどの良さがあります。一方、集団活動の幅や、多様な考え方に触れる機会が限られるといった課題もあります。

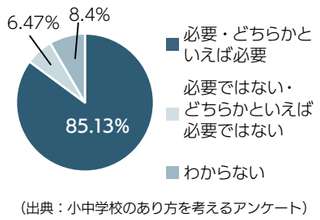
図１　小中学校児童生徒数の将来推計



アンケートでわかった保護者や地域の声

令和8年4月から6月にかけて、小中学生・未就学児の保護者、区長、教育関係者などを対象に、アンケート調査を実施しました。結果として、回答者の8割以上が一定以上の学級数を確保するための学校配置の見直しを「必要」「どちらかといえば必要」と答えました（図２）。

図２
問　一定以上の学級数を確保するために小中学校の配置を見直すことについて、あなたはどのように考えますか



（出典：小中学校のあり方を考えるアンケート）

子どもたちを第一に、これからの学びを考える

こうした現状やアンケート結果などを踏まえ、令和8年10月、審議会は、教育委員会に小中学校の適正配置について答申しました。答申書では、「学級数」「児童生徒数」「通学時間・通学方法」の指針を踏まえて適正配置を進めること、市教育委員会が舵取り役となり、段階的な再編や考え方を整理した短期・中期・長期でのロードマップを策定することなどが提言されています。

また、小中学校は地域コミュニティを支える大切な拠点でもあります。統廃合により閉校が想定される場合は、地域の声などを丁寧に聞き、コミュニティ拠点への転換や新たな教育施設としての有効利用等の検討も必要であるとの内容も含まれています。

今後、この答申をもとに、子どもたちの学びを第一に考え、教育委員会で具体的な実施計画を策定していきます。そして、保護者や地域の皆さんに丁寧に説明しながら、適正配置を進めていきます。

▲適正配置答申の詳細など

今、市内小中学校に通う子どもたちのための市の取り組み

市教育委員会として行っている、今小中学校に通う子どもたちが、知識や学力はもちろん、豊かな心や社会性を育めるような様々な取り組みを紹介します。

人数を問わない一人ひとりに寄り添う学び

複式学級が導入されている５つの小学校に、市が独自に先生を増やして配置しています。複式学級であっても、各学年の授業が行えるよう配慮しています。

また、「確かな学力」の育成の基盤となる親和的な学級づくりのために、「よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート（hyper-QU）」を行っています。アンケートによって、学級全体の傾向がわかり、個に応じた支援ができるようになります。学校生活に満足する本市の子どもたちの割合は、全国平均（約42%）に比べ高くなっています。

令和４年度後期	64.4%
令和５年度後期	66.8%
令和６年度後期	65.9%
令和７年度後期	70.0%

表　「よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート（hyper-QU）」で「学級生活満足群」と判定された常陸大宮市内の児童・生徒の割合

授業でも家庭学習でもデジタル活用



授業では、動画や図形などを動かせる3D画像、即時に書き込みが共有されるホワイトボードアプリなどを使い、内容の理解を深める活用がされています。また、児童・生徒がオンラインデザインツールで、学校行事のチラシを作るなど、自由な発想を表現する道具としても使われています。

さらに、「スタディサプリ」（株式会社リクルート）の講義動画・WEBドリル、「eライブラリアドバンス」（ラインズ株式会社）のAIドリル機能などのオンライン学習サービスを、市内の全小中学校の児童生徒が無料で利用できます。

多様な経験で将来の可能性を広げ、心の成長を促す

市内中学３年生を対象に、オーストラリアの文化や自然に触れホームステイを通して、語学力向上と国際理解を深める中学生海外研修を実施しています。

また、今年度から中学１年生を対象に「芸術ふれあい体験事業」を授業中に実施しています。市内在住の著名な芸術家が講師を務め、直接芸術を学ぶことで、芸術への関心を深め、想像力や個性を養うことを目的としています。

